

令和3年度（2021年度） 第1回熊本市教育の情報化検討委員会

日時 令和3年（2021年）7月7日（水）

13時30分～15時30分

場所 熊本市教育センター 3階第一研修室

出席者

【委員】

放送大学 中川教授（委員長）  
熊本大学 塚本教授（副委員長）  
熊本大学 金井准教授（委員）  
熊本県立大学 飯村教授（委員）  
熊本市PTA協議会 松島会長（委員）  
必由館高等学校 金井教諭（委員）  
千原台高等学校 高木教諭（委員）  
白川中学校 三角教諭（委員）  
楠中学校 田中教諭（委員）  
尾ノ上小学校 奥園教諭（委員）

【オブザーバーとして出席した者】

株式会社NTTドコモCS九州熊本支店 徳永部長

【熊本市（事務局）】

教育センター 廣瀬所長、小田副所長  
教育センター 職員

1 開会

2 挨拶

3 報告

- (1) 「小中学校における1人1台タブレット端末の活用状況」について
- (2) 「1人1台のタブレット端末導入の効果検証」について

4 議事

タブレット端末活用の学校・教員間の取り組みの差異をどのように解消するか

5 閉会

<p>開会 (事務局)</p>	<p>予定の時間となりましたので、ただ今より「令和3年度(2021年度)第1回 熊本市教育の情報化検討委員会」を開会します。 本日、司会を担当いたします教育センターの頼本と申します。 どうぞ、よろしくお願いいたします。</p>
<p>委員紹介 (事務局)</p>	<p>本日はご出席いただき、誠にありがとうございます。昨年度に引き続き、ご多用の中、熊本市教育の情報化検討委員会の委員をお引き受けいただき、また、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>また、今年度の人事異動や高等学校への端末整備を終えたのを受け新たな委員をお迎えしていますので、後ほど紹介をさせていただきます。</p> <p>それでは、委員を紹介します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 放送大学 教授 中川 一史(なかがわ ひとし)様です。</li><li>2 熊本大学 教授 塚本 光夫(つかもと みつお)様です。</li><li>3 熊本大学 准教授 金井 義明(かない よしあき)様です。 金井准教授は、昨年度の委員である前田准教授が教育センターへ異動したことから、就任して頂いています。</li><li>4 熊本県立大学 教授 飯村 伊智郎(いいむら いちろう)様です。</li><li>5 熊本市PTA協議会 会長 松島 雄一郎(まつしま ゆういちろう)様です。</li><li>6 必由館高等学校 教諭 金井 拓(かない たく)様です。</li><li>7 千原台高等学校 教諭 高木 洋一(たかき よういち)様です。 金井委員と高木委員は、昨年度Chromebookを高等学校に整備し、新年度から1人1台の端末運用を開始したことに伴い、就任して頂いています。</li><li>8 白川中学校 教諭 三角 貴志子(みすみ きしこ)様です。</li><li>9 楠中学校 教諭 田中 真弓(たなか まゆみ)様です。 田中委員は、昨年度の楠中学校の研究主任で、学校長からの推薦を受け就任して頂いています。</li><li>10 尾ノ上小学校 教諭 奥園 洋子(おくその ようこ)様です。 昨年度の委員である柴田委員が総合支援課へ異動したことを受け就任して頂いています。</li></ol> <p>それでは、本日の出席者数につきましてご報告いたします。</p>

<p>定定数 (事務局)</p>	<p>本日は、10名委員全員が出席されており、委員総数の過半数の方が出席されていることから、熊本市教育の情報化検討委員会運営要綱第5条第2項の規定に基づき、検討委員会は成立していることを報告いたします。</p> <p>なお、この検討委員会の議事録及び資料を熊本市のホームページに掲載いたしますことをご了承ください。</p>
<p>挨拶 (事務局)</p>	<p>それでは、開会にあたりまして当教育センター所長の廣瀬が、委員の皆様にご挨拶を申し上げます。</p> <p>所長よろしく願いいたします。</p> <p>【廣瀬所長 開会の挨拶】</p>
<p>事務局紹介 (事務局)</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして事務局の紹介へ移りたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育センター 小田 でございます。</li> <li>○教育センター 前田 でございます。</li> <li>○教育センター 真金 でございます。</li> <li>○教育センター 頼本 でございます。</li> </ul> <p>それでは、まず始めに本検討委員会の委員長及び副委員長を、熊本市教育の情報化検討委員会運営要綱第4条第1項の規定に基づき、互選で選出したいと思います。</p> <p>委員の中で委員長又は副委員長に立候補したい方はいらっしゃらないでしょうか？</p> <p><input type="checkbox"/> 誰も立候補しない</p>
<p>委員長及び副委員長選出 (事務局)</p>	<p>それでは、昨年度、当検討委員会の委員長及び副委員長をお願いしました放送大学の中川教授、熊本大学の塚本教授を委員長、副委員長としたいと思います。何かご意見等はありませんでしょうか？</p> <p><input type="checkbox"/> 意見無し</p> <p>それでは、昨年度に引き続き中川教授が委員長、塚本教授を副委員長といたします。</p> <p>なお、検討委員会の議長は、熊本市教育の情報化検討委員会運営要</p>

	<p>綱第 5 条第 1 項の規定に基づき委員長が務めることになっておりますので、議長、議事の進行をよろしくお願いいたします。</p>
中川委員長	<p>それでは、会議の進行をさせていただきます。委員の皆様方のご協力をお願いします。</p> <p>では、早速報告に移らせていただきます。</p> <p>次第に従いまして「小中学校における1人1台タブレット端末の活用状況」について、白川中から報告をお願いします。</p>
三角委員	<p>《三角教諭より説明 》</p>
中川委員長	<p>ありがとうございました。それではただいまのご説明に対して御質問、御意見等ありますでしょうか。</p>
塚本副委員長	<p>活動的にされていて、とても感心しています。報告がいいところを中心になっているが、良くなかった時もありましたか。今まで、どんな苦労があったのかを聞かせてほしい。</p>
三角委員	<p>子どもたちは、興味関心が高いので、いろいろな方向で使っていくとします。そうすると少し、学校生活や授業で支障をきたしたりすることもありました。使用量の問題など、そういうところを指導しながら、活用を進めていきました。しかしながら、子供たちに日常使いをさせたいというのがあります。いろんな場面で使える幅がどんどん広がっていく。その中で、学校としても使用上の約束を作っているのも、それを両立させることを、学校として頑張っています。</p>
塚本副委員長	<p>中学生ですので、やっぱりどうしても思春期というのがあって、よくない方向に走るのではないかという懸念もあろうかと思う。それをどのように指導されていますか。</p>
三角委員	<p>最初に学校で使用上のルールを作成しています。子どもたちにも、そのルールのことを十分に説明し、タブレットの活用を始めました。いつもそのことに立ち返り、指導しているところです。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございました。この課題は、全国の学校が抱える課題でもあるところですね。非常に大事なことだと思います。他にいかがでし</p>

<p>金井委員 (熊大)</p>	<p>ようか。</p> <p>よろしいですか。1番最後のページですが、僕のイメージでは、中学校では、教科という枠がとても強くて、なかなか教科をこえた先生同士で学び合うことが難しいのではないかと思います。その中で、今回タブレットの効果的活用を考えることによって、何か今までと違う効果がありましたでしょうか。</p>
<p>三角委員</p>	<p>そうですね。先生方にもタブレット自体の得意不得意は正直あります。そうすると、自分の教科だけでは進まないうことを実感されています。私は国語科を担当していますが、ほかの国語科の先生に尋ねる部分もありますし、違う教科の先生に、「これどうすればいいの」と尋ねることもあります。そうすると「私の教科、はこのようにしているよ。」と答えが返ってきます。そうすると面白いと感じます。休校期間中に学年で授業づくりを行いました。それで先生方の横の繋がりといいですか、他の教科の授業を見るという姿勢ができたと思います。タブレットと同じツールを用いることで、先生方が同じ研修を受けたりなどの共通する部分を得ることができたと思います。</p>
<p>金井委員 (熊大)</p>	<p>タブレットを使うときに、先生方は、どうしても自分たちの経験上の授業づくりに当てはめようとしてしまい、無理がきてしまっている。タブレットの良さをもっと生かすためには、もっとダイナミックに授業を変えることが重要となります。説明であったように、アウトプットの部分を大事にするとか、昔ながらの自分のしがらみを捨てて取り組んでいくことが、さらに授業を良くしていくと思います。そのような変化はありましたか。</p>
<p>三角委員</p>	<p>そうですね。やはり、ベテランの先生が、若手の先生にいろいろ尋ねます。尋ねないと先生が先へは進むことができないので。そうすると若手の先生が、ベテランの先生が授業のどのような場面で使いたいということがわかります。一時間すべての授業で使うのではなく、使う場面やポイントを知ることができます。それが年齢を超えた学び合いが生まれていると思います。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>よろしいですね。ありがとうございます。先生たちの年齢が異なる集</p>

	<p>団でどのようにうまく絡んでいくのかという、大事なところだと思います。他によろしいでしょうか。</p> <p>私もコメントしますが、校内研究でこれからの課題として対話ということがあったと思います。これはすごくいいなと思いました。例えば、プレゼンですが、先生はプレゼンソフトでプレゼンをされている。これは見せるものですね。例えば私が今ここに書いてあるのはメモです。これは人に見せるものではない。先ほどシンキングツールを使用した授業の場面で、子供が自分の考えをメモして、それを友達に見せていた。これまでは、まとめるものと、見せるものって別々のツールだったのが、これがどんどんシームレスになってくる。これを追究していくと、本当にいろいろな活用のバリエーションが見えてくるので、とてもいい研究になると思います。また、しっかりとポイントを押さえられていますので、ぜひここは突き詰めていかれることを期待しています。ありがとうございました。</p> <p>それでは、楠中学校の発表に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。お願いします。</p>
田中委員	《 田中教諭より説明 》
中川委員等	どうもありがとうございました。それではただいまの報告に対して御意見御感想ありますでしょうか。
塚本副委員長	質問があります。こんかいの説明は数学でしたが、ほかの教科は、どうでしょうか。
田中委員	教室で対面授業が出来なくなったらどうだろうかというような試みであったので、数学以外では実施しておりません。実際には対面授業ができていますので。タブレットを使った授業ということであれば、白川中学校がお話しになったように、以前に比べると授業でタブレットを活用していくという場面は非常に多くなりました。
中川委員長	事務局の前田さんいかがでしょうか。先程お名前が出ておりましたが。
前田（事務局）	楠中学校も白川中学校も同じですが、中学校の問題は教科の横断の文化が今までなかったことだと思います。タブレットを活用するという

中川委員長	<p>共通のテーマがあることが、中学校の活用が広がっていく鍵になるのではないかと思います。私は楠中学校の研究モデル校の担当をさせていただいておりますが、情報活用能力を中心に、こういう力をつけたいという柱となる目的があって、それを達成させるためにICTを活用するというようにすることが大事ではないかと思います。</p> <p>ありがとうございます。学校は端末を使うために授業をしているわけではないので、どんな力をつけるのか、そこにツールとして端末がどうかかるかというところですね。ありがとうございます。</p> <p>去年コロナ禍で、日本の学校は、対面かオンラインかということを追われた1年間でした。私は、これからは対面かオンラインかじゃなく、対面とオンラインとだと思っています。先生が発表されたようなハイブリットのやり方が、とても大事になってくると思います。この辺はぜひまた膨らませていただけると、ほかの学校の参考になると思って聞いています。ぜひよろしくお願いします。ありがとうございます。</p> <p>それでは3点目に入りますが、次は小学校ですね。尾ノ上小学校の発表をお願いします。</p>
奥園委員	<p>《 奥園教諭より説明 》</p>
中川委員長	<p>はい。どうもありがとうございました。では今の発表に対して御意見御質問ありますでしょうか。</p>
塚本副委員長	<p>放課後のカフェですが、取り組みを始めたのは誰だったのでしょうか。</p>
奥園委員	<p>以前勤務していた城南小学校で、勤務していた同じ学年の先生と始めました。その時、私は自分の携帯がガラケーでした。そんな時、タブレット端末が導入され、どうすればいいかわからないとかっていうときに、同じ学校の先生から、まずは先生が自分の携帯をスマホにしたらどうですかと提案を受けました。いつもその先生に、何でもお願い、お願いと言っていましたので…。スマホに替えた当時は、電話の切り方もわかりませんでした。そこで1日1個新しいことを覚えていこうと、放課後2人で始めたのがきっかけです。そこから一緒にやりたいという人が集まって、お茶を飲みながらカフェみたいにしようとなり、今の学校でもそれを引き続き行っている感じです。</p>

<p>塚本副委員長 奥園委員</p>	<p>今の学校では、初めは誰がスタートしようと思いましたか。</p> <p>本校の校長が、私が来る以前に放課後を利用して大型テレビの使い方等の練習をされており、私も放課後カフェをやりたいという旨をお伝えしたら、ぜひやろうということになり始めました。</p>
<p>塚本副委員長</p>	<p>いい取組だなと思います。それで先生のタブレットのスキルレベルがあがると思います。</p>
<p>奥園委員</p>	<p>授業の以前にスキルがあると、授業の展開を考えると、この場面で使うことができると思うことができるようになりました。新しい発想が出て、授業の幅が広がるようになりました。このタブレットが入ったことが本当にありがたいです。</p>
<p>金井委員 (熊大)</p>	<p>先生たちが日常的に使われ、子供たちも力をつけており、すてきな研修があって、校長先生も積極的に関わっていらっしゃる。そんな素晴らしい尾ノ上小学校でも学び取る授業へ意識を変えていくのが難しいと先生は言われました。一体どうすれば授業を変えることができると思いますか。</p>
<p>奥園委員</p>	<p>どうすれば良いのかという答えはわかりませんが、本校の先生たちの良いところは、新しい取り組みを始めようとする、最初はあまり乗り気ではない反応ですが、やりだしたらどんどん考えて、新しい方法を見つけてみんなで乗り越えていこうという雰囲気ができることです。昨年度の授業参観でも、初めてのオンラインでしたが、今年の授業参観では全くオンラインに対する抵抗感もなく、オンラインだからこそおもしろいねという感じでした。そういう先生型のやる気が良いと思います。2月5日が尾ノ上小学校のモデル授業の発表日ですが、自信をもって発表できると思います。</p> <p>先生方は今、何をすべきなのかわからない状況なので、とにかくありのままの自分の授業を録画しておくように伝えていきます。それを夏休みに見返して、自分たちの授業のビフォー&amp;アフターを発表したいと思います。そのゴールを考えることで、自分たちの授業をどう変えていくのかということ、2学期取り組んでいきたいです。プロジェクト</p>

	<p>トチームで国語チームや社会チームなど作成しているので、あとはチームに任せたいと思います。</p>
<p>金井委員 (熊大)</p>	<p>2月の発表が楽しみです。2月の結果の部分だけじゃなく、その過程の部分、どのように学校が変わって行けたのか、ちょっとうまくいかないところもあると思うが、そこも含めて、何かその過程が見えることが大事だと思います。</p>
<p>奥園委員</p>	<p>先日の話し合いで出たのですが、最後はやっぱ先生方に任せようとなりました。先生方も他の人から教えてもらえるという意識ができてしまうと、みんな考えることをやめてしまいます。自分たちでどうにかしなければならぬという状況が、先生たちの行動につながると思います。子どもを信じて、子どもに任せると私たちが予想した以上の結果を残してくれます。先生たちにも同じことが言えると思います。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>教師が夢中になって学ぶ場って良いですね。端末を使うために授業するわけではないということ、これは正論です。しかしツールとしての端末に教師が惚れ込むということも大事ななとすごく思いました。もちろんそれが目的ではないけれども、いかに先生方がおもしろいと思うか。そこはやはりすごく大事だと思います。それが先ほどのカフェにつながるのではないかなと思いました。一見楽しくやりながら、学びを深めていく、そのプロセスも先ほど言われたように、ぜひ発表の中に盛り込んでいただけたらいいと思いました。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、ここまで3校発表していただきましたが、本当に3校ともそれぞれの取組をされ、すばらしいアプローチをされている様子がよくわかりました。これからまた、今後のプロセスもどこかで御報告いただきたいと思います。どうもありがとうございました。</p> <p>それでは次の議題に入りますが、1人1台のタブレット端末導入の効果検証について、事務局からお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>《 事務局より説明 》</p>
<p>中川委員長</p>	<p>どうもありがとうございました。経過報告ということでしたけども、皆さんから質問はありませんか。</p>

飯村委員	<p>情報のマナーのこととか、安全性のこととかを考える生徒が増えてきているという報告でしたが、これはもうまさに熊本市が、アクセスに制限をかけなかったこと、それによる学びだったと思います。これまでの日本のやり方というのは、大人が子供に対して危ないとなるものを未然に防ぐため、ビニールハウスの中で、子供たちは学んでいる状況だったわけです。そのため子どもは何が危険かということすらわからずに、成長していき、いざビニールハウスから出たときにいろいろなものに巻き込まれるということだったと思います。それが、熊本市の方針として、今世の中にあるテクノロジーはこういうことができるかと教えてくれた。「今の年齢ならばこれはやって良いよね」「これはちょっとまずいよね」と教育で教えている。もちろん完全にテクノロジーで防げるわけではないので、間違いがあったり、事故が起きたりすることはあるかもしれない。しかし、そこから学んでいくという場、つまり、大人たちが、子供たちが学ぶ場を取上げなかった。これが先程説明のあった効果ではないかと思って聞いていました。</p> <p>基本海外もこういうやり方でやっています。海外を全部知っているわけではありませんが、僕が居たオーストラリアでは、こういうやり方をやっていました。要は、子供はその場で学んで考えるのだと思います。思考を巡らすチャンスを取上げないというのが1番大事なのかなと。それは何事においてもだと思いました。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございます。大きなところで、熊本市と他の自治体との大きな違いは制限のかけ方ですね。ここは本当に特筆すべきところです。</p>
飯村委員	<p>尾ノ上小学校のマインドだと、子供たちを信じること、それがやっぱり大事なのだと思いました。すみません。ちょっと話が戻りますが、尾ノ上小学校の事例でいくと、先生たちが夢中になっている背中を子供たちは見ていると思います。実はそれがすごい教育になっているという気がします。学ぶ姿勢を調整する上でも。要するに、各教科の学びということの基盤を何か学校全体としてつくり上げていくような気がします。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。</p> <p>先ほど制限をかけないという、熊本市の自治体の特徴がどう結果に出</p>

飯村委員	<p>てくるのかという話をしましたけども、多分熊本市的にはもう一つ、教えるから学びとるという、キーセンテンスがあると思います。これが、どの結果をもってそういうふうには解釈できるのか、ここは少し、まとめる際の工夫が必要だと思います。例えば複数の情報が活用出来たら、学びとると言えるのかどうか。端末のある機能の使い方ができると学びとるとなってもいいのか。これは解釈がいろいろ出てくると思いますので、その辺の少し理論武装が必要だと思います。この辺は少し一緒に考えていきましょう。</p> <p>その点で私も考えがまとまっていらないのですが。何かの記事で見たのですが、一般的にICT機器を入れると、テストの点数が上がると期待している人がいると思いますが、もちろんテストの点数があがるかもしれないですが、過度な期待はとっても危険だと思います。点数が上がらないとICTには教育的価値はないのかって話になってしまいます。教育はテスト等の結果のみ求める営みではなく、特に、小学校とか中学校では、創造性であるとか、心の成長や体力もそうだと思います。いろんな目標がある中で、ICTは道具であって、鉛筆とか消しゴムとかハサミとかと同じだと思います。例えば、子供たちにハサミを持たせて成績が上がるのか、伸びるのかという議論は出ない。それと同じで、はさみを持たせると、はさみを工夫して正しく使おうとする。ハサミで何か工作をする、正しく人に逆にして渡すなど、創造性とか配慮ある振る舞いとか、そういうことを学んでいくのだと思う。ICTの導入というのは、もちろん成績が上がるかもしれないが、点数の向上だけを期待するものではないと思います。知人の福岡県の高校の先生の話ですが、タブレットを導入したそうです。そうしたら、放課後、生徒が教室に残って、タブレットで何かしていたそうです。実はオンラインの英会話をやっていたのですが、その生徒は国際協力に興味があって、将来的に、海外に行きたいと思っていたのだと思います。オンラインの相手は、外国人ですね。オンラインの英会話の講師です。このように自分で取り組んでいく自主的というものの成果は、直接学校の考査の点数には直結しないと思います。その生徒はテクノロジーを使って、自分の学びたいものを見つけていくとか、知見を広めるとか、なりたい自分になるためにどうしたらいいのかを知るために端末を使っている。これも多分、テクノロジーを入れ込む、十分な教育的価値なのだと思います。評価のときに、何かそういうことも評</p>
------	---

	<p>価してあげると良いかなと思います。単純に教科の点数だけ上がるという部分では、きついのではないかと。テクノロジーを入れることの切り口は、点数が上がるだけではない、もちろん点数も上がると思いますが、そういう別の切り口も評価として、教育的価値としてあると思いました。</p>
中川委員長	<p>私が先ほど解釈したことと同じで、2段構えになっていると思います。直接、原因だという話にしてしまうと、なければ駄目なのかという議論にしかならない。今、熊本市のタブレットは子供の主体性を促進したツールになったという感じです。先程の三角委員が言われたのは、タブレットが会話を促進するツールになったという話です。</p> <p>これを調査の数字等で語るのは、難しいですね。私は工夫していただきと簡単に言っておりましたが、これをどう定量化するかという、課題は知恵を絞る必要がありますね。</p>
飯村委員	<p>定量化するには、ヒアリングとかぐらいしか出来ないのかもしれないですね。</p>
中川委員長	<p>それでは、時刻となりましたので、この話はここまでとしたいと思います。前田先生、飯村先生ありがとうございました。</p> <p>最後の項目に入りますが、少し時間をいただいて、自由討議として、タブレット端末活用の学校教員間の取組の差異をどう解消するのか。ここについて、いろいろと自由に御意見いただきたいと思います。まず事務局のほうから御説明ありますか。</p>
事務局 (前田)	<p>今、学校訪問で各校を回っていますが、モデル校などの学校の先生はかなり意識が高く、一生懸命取り組んでくださっている。しかし、それ以外の学校ではほとんど使っていない学校もあります。この学校間や教師間の格差をどのように埋めていくのか。そのことについて知見をいただきたい。</p>
中川委員長	<p>これは全国的な問題ですね。御自身の体験、あるいはその学校の話でもいいですし、ぜひちょっといろいろとご自由にお話いただきたい。いかがでしょう。</p>
松島委員	<p>先程の先生の話ですと、先生方がやらざるを得ないという雰囲気か</p>

	<p>きたので取り組みが進んだのではないかと思います。</p> <p>私は保護者ですが、他の保護者の方々にタブレットに関する理解が伝わっていないと感じます。私の周りにはタブレットに好意的な人が多いのですが、タブレットを普段から使い慣れていない保護者にとっては、正直まだ全く理解できていないと思います。先程学校のルールがありました、それも保護者は理解していません。また、タブレットは文房具と同じであり、成績と直結するわけではないということも全然わかっていません。ですので、やっぱりどうしても保護者への周知が必要だと感じます。保護者もコロナの影響で学校に行くことができずにいました。今後は、保護者側への啓発で、皆さんに理解していくことが必要だと思う。言い方が悪いかもしれませんが、保護者の理解が進めば、先生たちもその保護者の期待に応えなくてはならない。保護者が期待していますよと言えば、先生方もやっていますよということにつながるのではないかと感じます。保護者への通知、これが急務ではないかと思っています。</p>
中川委員長	<p>ありがとうございます。保護者の側面からということで、違った側面から、ご意見いただきました。</p> <p>では高校の2人の先生にお聞きしましょう。</p>
金井委員 (必由館)	<p>以前は、職員用 iPad を貸していただいております。生徒は、持ち込みで端末を利用していました。スマートフォンですが、契約の状況やフィルタリングの違いがある中で去年1年間取り組みました。先生方の意識の差も大きく、年齢の差もかなりあり、当初はものすごい抵抗がありました。昨年のは前半は休校期間がありましたので、進路についてなど、先生たちのニーズに応えるという形でタブレットの必要性を実感してもらいました。1200人分のマークシート方式をタブレットで集約できるようなものに変更したりしました。それからだんだんと先生方も変化しつつ、今では積極的に取り組み先生も増えてきました。しかし、それが全職員というわけじゃなく、まだまだな先生もいる状況です。いろいろな情報を先生方が共有し、授業研究のために使おうとしているのでこれを広げていきたいと考えている。一人一台端末になったので、今後はもっと広がると感じている。</p>
高木委員	<p>高校は端末導入が遅れたところがありましたが、本校は情報科もあり</p>

	<p>まして、受け入れの環境はできていました。昨年の4月に、まず iPad を貸していただけるとわかった時の先生たちの反応としては、とても無理だという感じでした。そこからスタートしまして、休校期間中に1人2人と先生たちが動画配信や課題を送るなどの体験をする中で、iPadの利便性に気付いてもらえたかなと思います。1年後、高校ではiPadからChromebookに変更になりましたが、先生方はiPadを使い続けたいといわれるまでになりました。取り組み始めは抵抗感があるようですが、実際体験することで、先生方は変化していくのだと思いました。他にも様々なツールを使って生徒たちの意見を共有するというのも出来ていたので、少しずつそうやって、1人の先生2人の先生からちょっとずつ「これできる」というのを広げていきたいです。今の状況を見ると、少しずつ広まってきたと思います。2学期からはもっと活用が進むのではないかと思います。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>どうもありがとうございました。2人に話していただいて高校の状況もよくわかりました。ありがとうございます。  こうやって、小中高、一堂に会するってとても大事ですね。  あと1人か2人いかがでしょうか。</p>
<p>奥園委員</p>	<p>本校ではほぼ全ての先生が同じような状況で使っています。例えば「今日の職員会議に必要な道具はタブレットです。」「今日の研修に必要な道具はタブレットです」と伝えています。もうタブレット一つで、職員会議の資料も研修の資料も提供するようにしています。また、オンライン会議もタブレットのZoomを使っています。校長先生も教頭先生もタブレットで返信してもらうなど徹底しています。ですから、できない人はできる人から習うしかない状況を作っています。それで先生方がみんな同じことができるようになりました。そして、少し操作に長けている人が放課後カフェで講師をしながら先生たちのスキルを上げるという流れになっています。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>どうもありがとうございました。この話だけで、この会議全部の時間、使ってもやりきれないぐらいの話だと思います。ですので、事務局にお願いですけれども、ぜひ継続して、どういうふうに市全体で共通理解を持っていくのかっていうことは、何らかの形で議論していきたいなと思います。皆さんありがとうございました。今日は3校の大変貴重</p>

	<p>な実践を御報告していただいたところから、皆さんにたくさんの貴重な御意見をいただきました。また第2回の委員会に向けて、深めていきたいと思います。どうもありがとうございました。</p>
<p>塚本副委員長</p>	<p>すみません。副委員長から委員長へ質問ですが、熊本の取組はどう思いますか。</p>
<p>中川委員長</p>	<p>熊本市は先を進んでいます。先を進んでいることは、ある意味大変なところもあります。なぜならば、誰もが通ってないので、先に進むというのはその答えも課題も含めて、全部抱えてやっていかななくちゃいけない。そこまで非常に丁寧に対応していると私は思っています。3校の先生方の話を聞いても、高校の先生方の話を聞いても、教師が今まで持っていた、教えるというところから、どうやって脱却して子供たちに任せ、主体的にやっていってもらわなければならないことにすごく注目している。もしかしたら端末を抜いても、そういうところは、しっかり向かっているのではないかなというふうに思います。それに1人1台端末が今加わっているので、とてもこれ強力な、しかも全国に先駆けて、たくさんの知見も出てくるのではないかと考えています。楽しいです。</p> <p>では事務局にお返しします。</p>
<p>事務局</p>	<p>議長、議事の進行ありがとうございました。</p> <p>ここで、教育センター副所長の小田からお礼を申し上げます。</p> <p>【小田副所長挨拶】</p> <p>それでは、次回の会議日程を決めたいと思います。次回は12月中旬頃に開催を予定していますが、委員の皆さまのご都合はいかがでしょうか？</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">次回の日程が決まる</span></p> <p>最後になりましたが、これで令和3年度（2021年度）第1回 熊本市教育の情報化検討委員会を閉会いたします。</p> <p>委員の皆様 ありがとうございました。</p>

